リーディングセミナー　オーガナイザー報告書

氏名・学年	青島　圭佑　特任助教
セミナー名	第 12 回リーディングセミナー
開催日時/場所	2015 年 2 月 17 日 15 時 北大獣医講堂

講演 タイトル	Dual function of histone H3K76 methylation in cell cycle regulation and development differentiation in Trypanosoma brucei
講演者名	Prof. Christian J Janzen
職名/所属/国	Professor / Dep. of Cell & Developmental Biology. Biocenter of the Unicersity of Wuerzburg.

招聘経緯・理由等	**・講演者の紹介** 今回講演をお願いした Prof. Janzen はトリパノソーマのエピジェネティクスを世界で唯一研究しており，脊椎動物の持つエピジェネティクスとは異なる機能・動態を次々に明らかにしている。近年も Mol Cell, Nat Commun 等, High impact factor を有する雑誌に多くの成果を発表している。 **・担当者が何故、招聘を希望したか？** 現代分子生物学の潮流であるエピジェネティクス，その最先端研究の知識を学生達に学んでもらいたいという思いがあった。また，”病原体自体”のエピジェネティクスの研究はほとんどなく，トリパノソーマのエピジェネティクスという全く新しい分野の情報を得てもらいたかった。さらに，獣医学研究科の人たちには馴染みの薄い基礎生物科学ではなく，より親しみのある感染症を通して，エピジェネティクスについて学生達には学んで貰いたかったため，Prof. Janzen を招聘することとした。 **・招聘にあたってのコンタクトについて** Leading office を通じてメールにて依頼。返信はとても早く翌日には OK の返事が得られた。本人も気さくな人柄で，日本についても興味を持っていたようで，特に不自由なくスムーズにコミュニケーションは進んだ。
セミナー、質疑応答につい	**・セミナー内容の概略** ヒストンメチル化酵素の一つである DOT1 のトリパノソーマにおけるホモログについてその異なる 2 つの機能について講演していただいた。また，エピジェネティクスの概論も一からわかりやすく説明し，さらには実験手法においても解説を加え，実験原理を詳しく知らない人でも理解しやすい内容であった。 **・参加状況／セミナーの形式** 講演 (60 分) + 質疑 (20 分程度) **・質疑応答の状況** 一斉に多くの質問が上がったわけではなかったが，計 6 個程度の質問が上がった。研究内容についての質問は難しいとは思うが，どんな初歩的なものでも良いと促したところ，いくつかエピジェネティクスの基礎に関する質問があがり，講演者もそれに丁寧に答えてくれた。セミナー終了後も個別に質問に対応してくれていた。
セミナー外の活動	**・セミナー外でどのような活動を行ったか (交流会、研究室内ディスカッションなど)** キャンパス案内。獣医学研究科および人獣共通感染症リサーチセンターの案内。 担当者（青島）との研究ディスカッション。小樽観光。
反省点・感想等	**・反省点** 招聘状送付の段階では講演を 7 月にお願いしており，それに合わせて先方は授業の予定を変更してくれた。しかし，他の LP セミナーの日程と被ることになってしまい，日程を 7 月から 2 月に変更することになった。先方の厚意に失礼であったので，このようなことは次回は避けるべきである。 **・セミナーを運営して学んだ事、今後に活かせそうな点など** わかりやすく，聴衆が満足してくれる講演を作りあげるためには演者との入念な調整が必要だということ。今回はこちらの希望を細かく伝え，講演前にも一緒にスライドを見ながら入念に打ち合わせを行った。 **・オーガナイザーを担当し、どの点が自分の能力にプラスになったか** 講演者と聴衆の橋渡し役となることで，それぞれの立場から会を考えられるようになった。この事はこれから発表する側に立った時に，わかりやすい発表を作りあげるための貴重な情報と成りうる。